

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

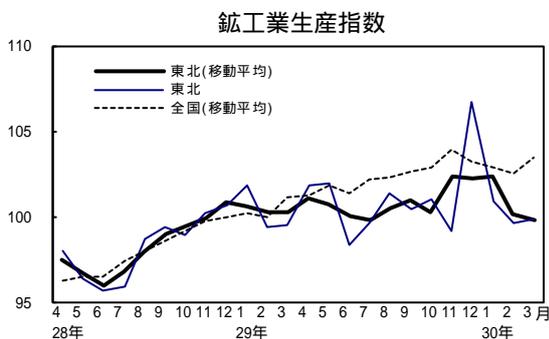
前回からの主要変更点

	前回(平成30年2月)	今回(平成30年5月)	
個人消費	足踏みがみられる	底堅く推移	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

1 - 3月期には、電子部品・デバイス、コネクタが、スマホ向けで一服感が見られるが、車載向けの需要が引き続き好調である。はん用・生産用・業務用機械は、世界的な需要の高まりなどにより半導体製造装置等が増加した。食料品・たばこは、ビール、清涼飲料水が減少した。情報通信機械は、ノート型パソコン等が増加した。輸送機械は、機関部品等で減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

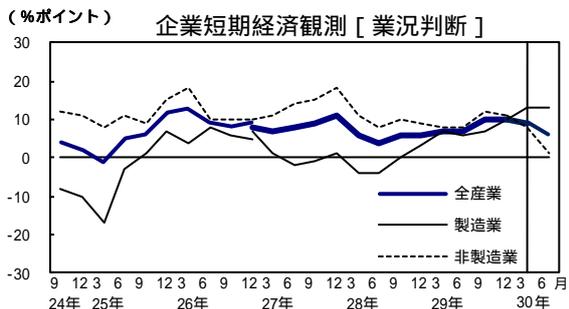
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	16.9	8.0	4.6	5.3	0.9	3.7
はん用・生産用・業務用機械	14.7	0.5	1.1	8.0	13.0	5.8
食料品・たばこ	10.6	1.9	0.6	1.9	0.8	1.4
情報通信機械	9.2	3.8	12.1	29.8	7.7	1.4
輸送機械	8.3	3.8	2.2	11.0	9.8	1.6
鉱工業	100.0	1.8	2.2	5.4	1.3	0.3

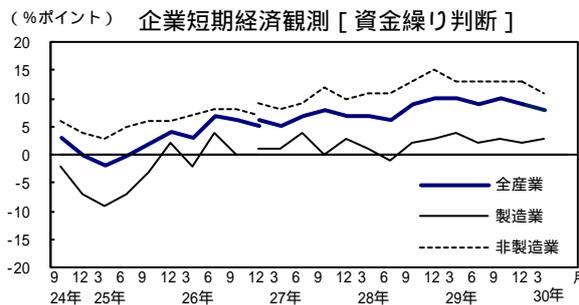
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

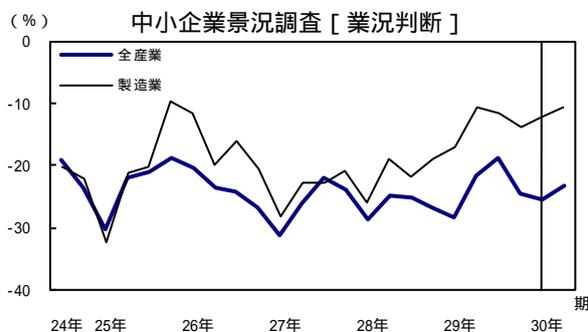
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月及び29年12月は新・旧基準を併記。

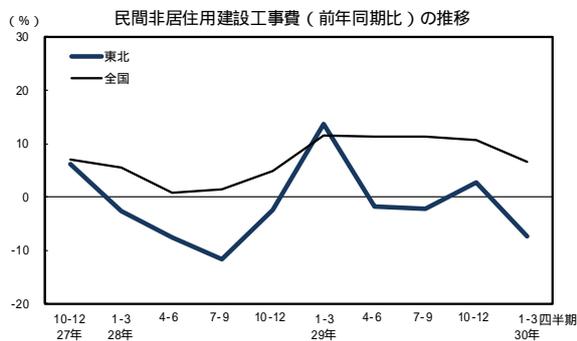


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「春先の気温上昇で大雪による春作業の遅れも解消されたかと思っただが、ここに来て、低温と降雨が続き、果樹の受粉や育苗に影響が出ている(農林水産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて減少している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	29年度実績見込み	30年度
全産業	5.6(3.8)	0.9
製造業	7.9(6.4)	0.0
非製造業	2.8(0.5)	1.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比3.0%増、2月は同0.6%減、3月は同2.5%減となった。

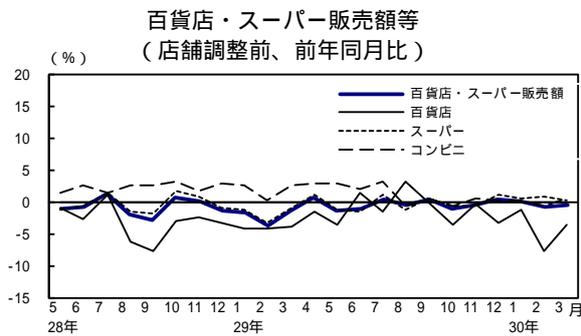
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、コートなどに動きが見られたものの、売り場面積の減少に加え、寒波の影響による客数の減少などにより、衣料品、飲食料品共に減少したことから前年を下回った。2月は、引き続き、売り場面積の減少などにより衣料品が減少したことから、前年を下回った。3月は、身の回り品の婦人靴やバッグなどにより動きが見られたものの、引き続き、売り場面積の減少などにより、衣料品、飲食料品共に減少したことから、前年を下回った。

スーパーは、1-3月期は、衣料品は前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「雪がなくなり気温も上がっているため、来客数が伸びてきている。また、桜の開花が早まったお陰で4月後半の売上も増加している (コンビニ)」など「良くなっている」とする回答が増加した。

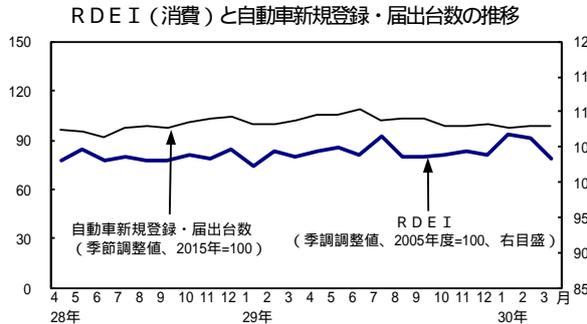


	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.4	3.0	0.6	2.5
百貨店・スーパー(*2)	0.3	0.2	0.7	0.5
百貨店(*2)	4.0	1.1	7.8	3.7
スーパー(*2)	0.4	0.4	0.7	0.2
コンビニ(*2)	0.1	0.2	0.5	0.5
乗用車(*3)	3.5	2.4	2.0	5.0
(季節調整値)(*3)	1.4	3.3	1.8	0.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

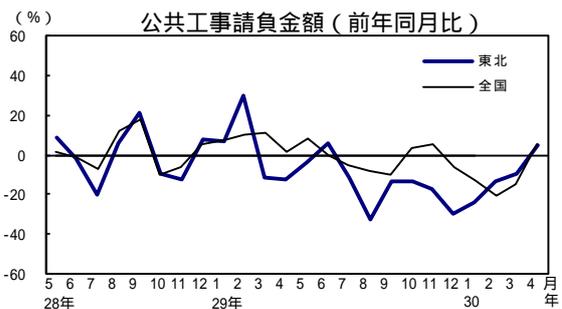
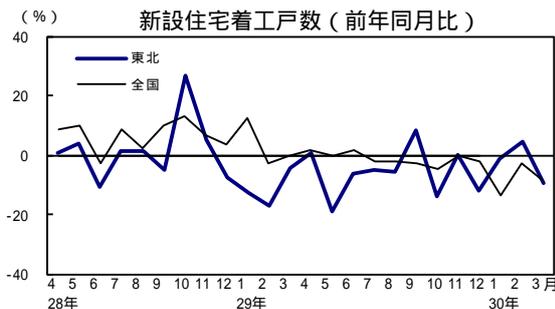
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。

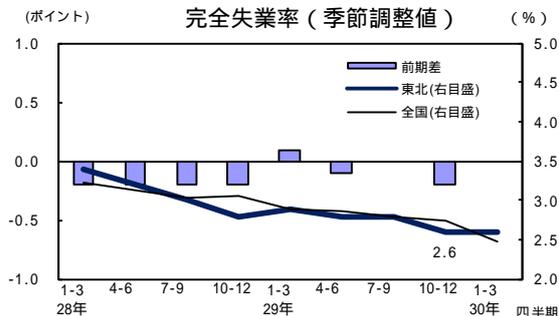
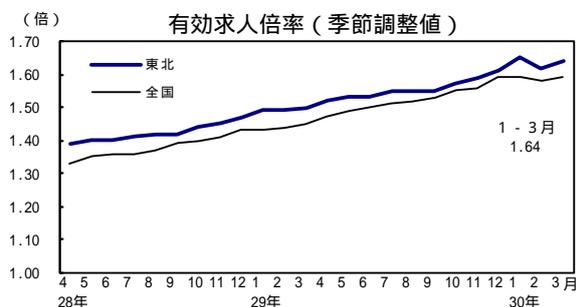


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]

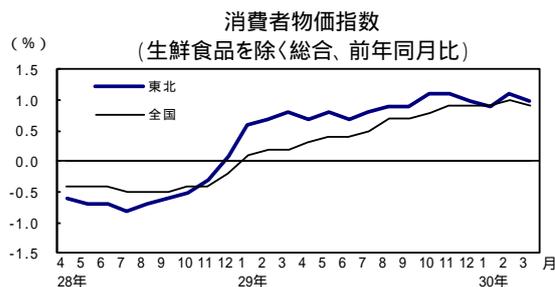
「人材獲得意欲が高く処遇面でも勝る首都圏企業への人材流出に歯止めが掛かっていない (新聞社 (求人広告))」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4-6月	7-9月	10-12月	30年1-3月	30年4月
倒産件数	82	82	90	80	33
(前年比)	10.9	3.8	0.0	15.9	73.7
負債総額	126	136	250	167	61
(前年比)	37.5	24.7	43.6	11.3	150.4



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

